

要介護5からADLが向上した1例

～ 予後を決めつけず、目標に向かう大切さ ～

令和4年9月25日

施設名：ケアハイツやすらぎ

部署名：リハビリテーション課

発表者：田中優一（理学療法士）

はじめに

要介護5の方が本施設に入所され、本人様及び家族様から『在宅復帰』という強い希望があり、在宅復帰してもらう為に取り組んだ。

この取り組みの中では、**入所者様の入所時の身体機能の予後予測と、現在の状態に大きな乖離があった。**

在宅復帰という目標に向かって本施設が毎日のケアやリハビリを実施し、現状の状態に至った経緯を報告する。

症例紹介

①氏名：A氏

②年齢：87歳

③性別：女性

④介護度：要介護5

⑤入所時の状態

自宅にて転倒。**第2頸椎骨折、右肩脱臼、左硬膜下血腫**を発症。3ヶ月間の入院加療後に本施設にリハビリ目的で入所となる。

⑥本人様・家族様の希望：家に帰りたい

⑥ A D L の経過

状態	入所時 (R2.4.17)	現在 (R4.8.1)
介護度	要介護5	要介護3
起き上がり	不可	軽介助
立ち上がり	不可	軽介助
座位保持	不可	軽介助
立位保持	不可	軽介助
乗り移り	リフト使用	軽介助
歩行	不可	平行棒内可
食事	全介助	自立
トイレ	オムツ	トイレ可
更衣	全介助	軽介助
入浴	機械浴	普通浴
B. I.	4点	20点

在宅復帰に向けての課題

本人様は（ **寝たきり** ）の状態



本人様・家族様の希望

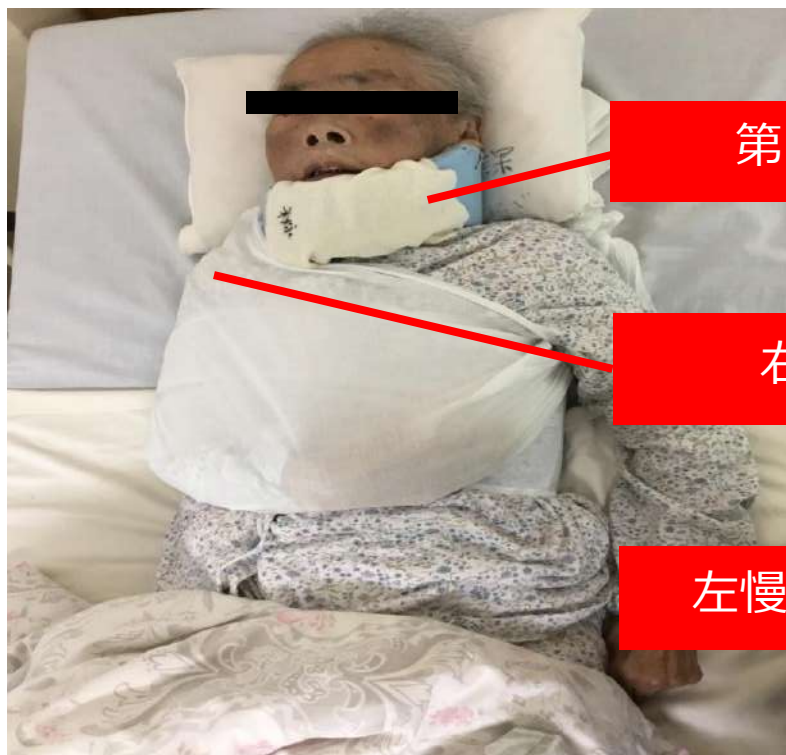
『 **家に帰りたい** 』……在宅復帰を希望される



看介護職員/リハビリ職員のやるべき事

寝たきりの為に、在宅復帰できる予後が想像つかない

本人様の入所時の状態



第2頸椎骨折

右肩亜脱臼

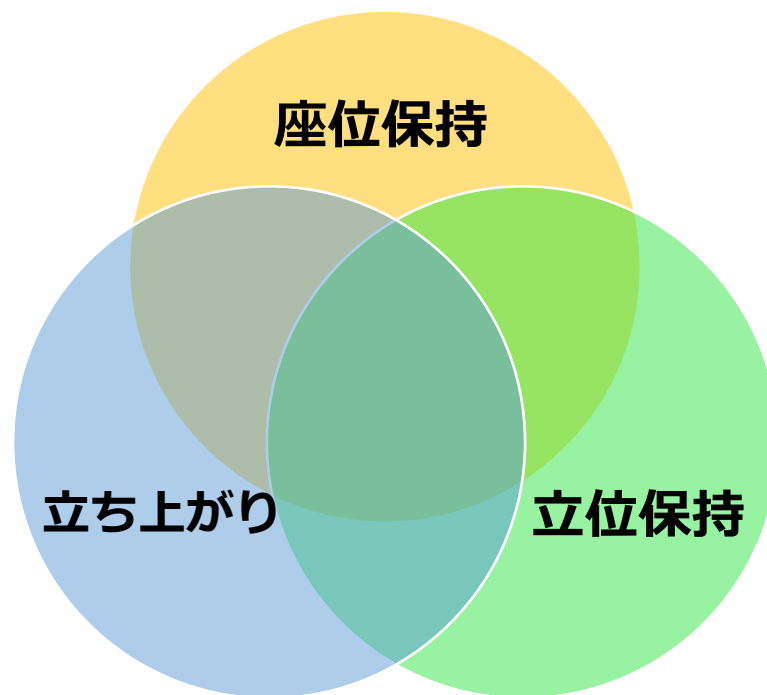
左慢性硬膜下血腫



体位交換の介護をするだけでも **リスクが高い状態**

在宅復帰するための課題

乗り移りまでの介助量の軽減を目標にした



実施したこと

1. 体動することに大きなリスクを伴う



第2頸椎骨折
(再骨折の危険性大)

右肩亜脱臼
(再脱臼の危険性大)

看介護職員

- ・動かしていいの？
- ・動かすの怖い、、、

リハビリ課職員

- ・ドンドン動かさないと

考え方
の違い

口頭や記録での申し送り以外にも

『 **写真**や**動画**を利用して、申し送りを実施した』

様 ベッド上ポジショニング(背臥位) ←

写真① (ポジショニングなし)



写真② (背臥位前面)



写真③ (背臥位側面)



<写真①：ポジショニングなし> ←

・頭と下肢が左側へ傾き、体がまっすぐな状態ではなく下肢とベッドの間に空間があり楽な姿勢ではありません。 ←

・左の骨盤や左大腿骨大転子部、左くるぶし部に褥瘡形成のリスクが高い状態です。 ←

<写真②・③：背臥位(仰向け)> 写真②・③を参考にポジショニングをお願いします。 ←

1 頭部が左に傾きやすいため、枕の左下に4つ折りにした**タオル**を1つはさめます。 ←

2 肘下に**タオル**等を挟みます(右肘が下がらないように)。 ←

3 **体交クッション**を身体の左側面から挟みます(しっかり入れてください) ←

4 膝下に**花柄クッション**を一つおき、その上から**じゃばらクッション**を上写真のように配置します。 ←

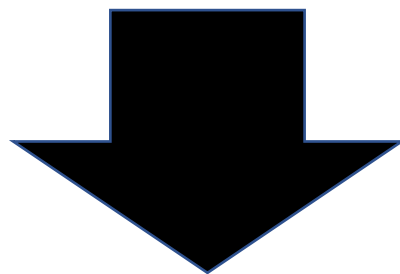
↓ ←

身体がまっすぐとなり、身体にかかる圧の分散ができる楽な姿勢となります。 ←

実施したこと

2. ケアを実施する不安

- ・ 介助、介護に入って怪我させてしまうかもしれない
- ・ どこまで動かすのは大丈夫なの？
- ・ ○○までする必要あるの？



介護職員のケアに対する
不安を取り除くために

看護職員とリハビリ職員で安全な動作指導を実施



① 食事介助

伝えたこと

- ・ リクライニング車椅子での座位は良好
- ・ **頸は伸展しなければ心配いらない**
- ・ 上肢機能は回復していないので、食事は全介助
- ・ **食事時間の座位保持(約30分)は十分可能**



② 座位保持の状態

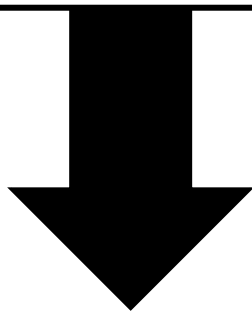
伝えたこと

- ・ 背もたれがなくても座位可能
- ・ **座位姿勢は自力で可能**
- ・ 上肢は机上であれば十分使えるようになった
- ・ **頸部と右肩の再受傷のリスクは軽減している**

実施したこと

3. リハビリした効果を家族様に報告

4. 家族様との情報交換

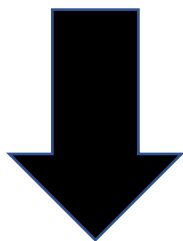


主に相談員とリハビリ職員で動画を利用して、報告や情報交換を実施

家族様の不安に思う事、疑問に思う事の話し合いをした

結果

私たちの予後予測では、要介護5からのADL向上は見込めると思っていなかった

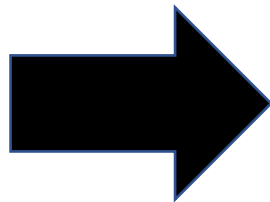


毎日のケアを継続することで

『 **要介護5** → **要介護3** 』とADLが向上した

経過

(入所時)



(現在)



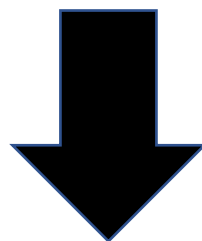
まとめ

(通常であれば)

入所者様・家族様の希望

+

今後の予測される状態



日課を継続する事で

次の生活の場に移行できるよう取り組む

まとめ

(今回の事例を通して)

入所者様・家族様の希望  今後の予測される状態

私たちが心掛けること

入所者様・家族様と施設全体と一緒に目標に向かって

毎日を積み重ねる事が非常に大切である

ご清聴ありがとうございました